

オンライン 座談会 講演会

伝統工芸用具・原材料の 持続可能な確保に向けて

～分野・業種を超えた情報共有・交流へ～

【開催趣旨】

文化庁では、伝統工芸の様々な用具・原材料が担い手の減少等によって確保し難くなってきていることから、平成29年から令和元年にかけて、現状調査のための調査や検討を行ってきました。その結果、将来的に用具・原材料を確保していくには、伝統工芸の分野や業種を超えた情報共有・交流が重要であると確認しました。

そこで、伝統工芸の技術や用具・原材料を一般にもわかりやすく紹介しつつ、その確保に関わってきた様々な分野の識者を中心に、持続的確保に向けて関係者の取り組みを促進するための意見交換を行う座談会と講演会を4回シリーズでオンライン開催します。

【開催予定】

- 第1回 座談会「漆の会」／「環境×文化」～持続可能な取り組みに向けて～
開催：2021年2月10日(水)17:30～19:00
- 第2回 座談会「金工の会」／「継承と情報共有」～次代に受け継ぐために～
開催：2021年2月24日(水)18:00～19:30
- 第3回 座談会「森林資源の会」
／「分野を超えて」～情報共有・交流の「場」づくりに向けて～
開催：2021年3月3日(水)17:30～19:00
- 第4回 講演会(講師)塩瀬隆之 京都大学総合博物館 准教授
／withコロナ時代の情報発信・つながり方
～用具・原材料の持続的確保のために～
開催：2021年3月16日(火)17:30～19:00

各回100名 * 各回申し込みが必要です(裏面をご覧ください)

オンライン座談会・講演会

～伝統工芸の用具・原材料の持続可能な確保に向けて～

第1回 座談会「漆の会」

／「環境×文化」～持続可能な取り組みに向けて～

【開催】2021年2月10日(水)17:30～19:00

(Zoomウェビナーによるオンライン開催)

漆芸の分野で塗りや蒔絵装飾などに使われる刷毛・筆は、繊細な表現を可能とする動物毛を伝統的材料として作られてきました。しかし、その採取・加工等に携わってきた担い手の高齢化などで確保が難しくなっています。

今回の座談会では、鳥島（東京都）における環境省の事業の中で副産物として生じたクマネズミの毛を漆刷毛・蒔絵筆作りに利用しようという試みを映像等を織り交ぜながら紹介。この取り組みが実現するまでの経緯、成功のポイント等を語り、今後の工芸関係者などの取り組みに資する示唆を提供します。

さらに、このような取り組みを持続可能なものとするために、我が国も対応が求められている「SDGs（国連のサミットで採択された国際社会共通の持続可能な開発目標）」を踏まえ、これに調和する伝統工芸に対する社会的な理解を訴求します。そして、価値観を共有できる人々や産業界との情報共有、連携、用具・原材料の持続的確保のための取組促進に向けて、どのようなことができるかを語ります。

【出演者】 室瀬 和美 漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者
松沢 友紀 いであ(株) 国土環境研究所生物多様性研究センター 主査研究員
佐藤 真久 東京都市大学大学院 環境情報学研究科 教授
岩関 禎子 (一社)ザ・クリエイション・オブ・ジャパン 専務理事 兼 事務局長

【申込先】 下記URLから入力と送信をお願いします(または、文化庁HPから)。
(職場ネット環境でアクセスできないときは、スマホ等を活用ください)
https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_-VEyGIMUQI2jjJuzEenguA

【申込締切】2021年2月5日(金) 定員(100名)に達した場合、締切以前に締め切りますのでご注意ください。

【お問合せ先】 (事務局) 公益財団法人 未来工学研究所
〒135-0033 東京都江東区深川2丁目6-11 富岡橋ビル 4F
(電話:担当直) 090-2317-9499 (代)03-5245-1011
(E-Mail) kougei.online@gmail.com (担当)関、三重野/未来工学研究所

第1回 座談会「漆の会」

／「環境×文化」～持続可能な取り組みに向けて～

出演者



室瀬 和美 漆芸家・重要無形文化財「蒔絵」保持者

東京都出身。漆芸家だった父・春二に学び、同じ道を志す。人間国宝の故・松田権六、故・田口善国両氏に師事、東京藝術大学大学院（漆芸専攻）修了。在学中より開始した創作活動と共に漆工文化財の保存活動も行い、漆・蒔絵の美と素晴らしさを積極的に国内外で発信する。日本伝統工芸展にて東京都知事賞など受賞多数。2008年、重要無形文化財「蒔絵」保持者（人間国宝）に認定。同年、紫綬褒章受章。現在、公益社団法人日本工芸会の副理事長を務める。作品は文化庁、東京藝術大学、東京国立近代美術館、大英博物館、メトロポリタン美術館、V&A博物館などに収蔵。

松沢 友紀 いであ(株) 国土環境研究所生物多様性研究センター 主査研究員

東京生まれ。筑波大学卒業、東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程単位取得満期退学。2002年国土環境株式会社（現：いであ）入社。（財）水資源協会、（公財）地球環境戦略研究機関での研究員を経て現職。動植物調査を行う一方、環境行政や民間コンサルティングにも従事。2015年と2017年には伊豆鳥島で海鳥保全活動に従事。横浜美術大学非常勤講師、学び舎江戸東京ユネスコクラブ理事、千代田区生物多様性推進懇談会委員。名古屋大学大学院環境学研究科博士課程。技術士（環境影響評価・建設環境）、環境アセスメント士（自然環境）、生物分類検定1級（鳥類）、NACS-J自然観察指導員。



佐藤 真久 東京都市大学大学院 環境情報学研究科 教授

筑波大学・同大修士課程を経て、英国サルフード大学にてPh.D取得。地球環境戦略研究機関戦略研究プロジェクト研究員、ユネスコ・アジア文化センターシニア・プログラム・スペシャリストを経て現職。「国連・ESDの10年」国連組織諮問委員会テクニカル・オフィサー、国連大学サステナビリティ高等研究所客員教授、UNESCO ESD-GAPプログラム共同議長、SDGsを活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業委員長、ユネスコ未来共創プラットフォーム座長、NPO法人ETIC.理事、責任ある生活についての教育と協働国際理事会理事、JICA技術専門委員、IGESシニア・フェローなどを歴任。協働ガバナンス、社会的学習、中間支援機能などの地域マネジメント、組織論、学習・教育論の連関に関する研究を進めている。



岩関 禎子 一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン 専務理事 兼 事務局長

（一社）一般財団法人川村文化芸術振興財団 理事、（株）ギャラリー桜の木 代表／アートディレクター、（株）ARTBOND 代表取締役
1972年生まれ。1994年法政大学社会学部卒業。在学中より家業（ギャラリー桜の木・美術商）に従事。2005年同代表取締役社長に就任。2010年株式会社ARTBOND設立。2013年一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン創立／代表理事・林田英樹（元文化庁長官）。2016年～一般財団法人川村文化芸術振興財団理事。2018-20年文化庁「伝統工芸用具・原材料に関する調査事業」委員。

